モーニングセミナー 6



肩関節に対する理学療法の進め方
―エビデンスを介入に生かす臨床意思決定―

整形外科北新病院リハビリテーション科
伊藤 雄

肩関節疾患に対する理学療法においては，評価にて得られた所見を適切な介入へ変換する臨床意思決定が重要である．無症候性腱板断裂症例が存在するように，肩関節疾患においては診断名で示される解剖学的異常が必ずしも症状の原因とは限らない．したがって，腱板断裂やインピンジメント症候群といった病態解剖学的診断による分類から介入を決定するのではなく，肩関節を含む全身の評価から得られた機能障害に関する情報を基盤として，それらの情報から問題点を統合し，最適な介入を導き出すための臨床推論のプロセスが重要になる．

本講演では，日常診療において遭遇頻度の高い，腱板断裂を含む腱板関連疼痛，凍結肩，肩関節不安定症における理学療法介入について，疾患名に対する介入ではなく，機能障害を引き起こしている原因に対してどのように対応していくかについて解説していく．腱板断裂を含む腱板関連疼痛では，正常肩における機能解剖やバイオメカニクスとの対比から対象者の肩関節異常運動を推察し，さらに，それらが症状発現メカニズムに対して与える影響と関与の程度を推察することで疼痛を引き起こしている原因を特定し，介入計画を立てていくことが重要である．凍結肩では，病期と疼痛に対する反応（irritability）に応じて介入方法を検討し，それぞれの病期で何を優先し介入するべきか，また介入の際の力学的負荷に対する対象者の反応に合わせた介入強度の選択について解説する．肩関節不安定症では，保存療法，術後療法ともに損傷組織，修復組織の治癒に合わせた time-based の理学療法の進行だけでなく，力学的負荷に対する耐性，筋機能，動的安定性の獲得，心理的準備など criteria-based の進行管理の重要性を示す．

本講演が，参加者の肩関節理学療法に対する「動機付け」を高めるとともに，再評価し介入を修正していくことで，より対象者に適合した肩関節理学療法を提供できる「自信」を獲得する一助となることを期待する．

略歴

【学歴】
2008 年　北海道大学医学部保健学科理学療法学専攻　卒業
2010 年　北海道大学大学院保健科学院保健科学専攻修士課程　修了（保健科学修士）

【職歴】
2010 年　社会医療法人　朋仁会　整形外科北新病院　リハビリテーション科入職
2024 年　社会医療法人　朋仁会　整形外科北新病院　リハビリテーション科科長代理（現在に至る）

【所属学会】
日本肩関節学会/日本肩の運動機能研究会　世話人
日本スポーツ理学療法学会
日本運動器理学療法学会
日本スポーツ整形外科学会
日本臨床スポーツ医学会

【受賞歴】
2023 年度　日本肩関節学会　国際論文奨励賞